

『200年目のジョルジュ・サンド』

はじめに

ジョルジュ・サンド略史

用語解説

§ 解釈の新しい視座

1. 男と女

第1章 性を装う主人公—『我が生涯の記』『ガブリエル』 新寶五穂

- 1) 1830年代のパリにおけるサンドの男装
- 2) 『ガブリエル』における女主人公の異性装

第2章 変身譚に読み取る平等への希求—『モープラ』をめぐって 小倉和子

- 1) 『モープラ』の背景
- 2) 登場人物たちの変身
- 3) サンドの時代の「結婚」

第3章 異身分結婚への挑戦 稲田啓子

—『フランス遍歴職人たち』『アンジボーの粉ひき』『アントワーヌ氏の罪』

- 1) 父親—結婚の「障害」
- 2) ブルジョワの求めるもの—一家名か、財産か
- 3) 偏見と社会的圧力
- 4) 新しい家族の創造へ向けて

第4章 「男らしさ」のモデル—『愛の妖精』をめぐって 高岡尚子

- 1) 「男らしさ」の移り変わり
- 2) 『愛の妖精』の作品世界における「男らしさ」
- 3) シルヴィネの「男らしさ」が意味するもの

第5章 変装するヒロインたち 西尾治子

—『アンディヤナ』から『歌姫コンシュエロ』『ルードルシュタット伯爵夫人』へ

- 1) 復讐する分身
- 2) 仮面のアイデンティティ
- 3) 変装による自由の獲得

2 交差する芸術

第1章 文学・絵画・音楽の越境—ドラクロワが描いたジョルジュ・サンド 河合貞子

- 1) ドラクロワの創作理念と革新性
- 2) サンドの肖像に表現された女性像
- 3) 異なる芸術の対話

第2章 音楽の力・芸術の自由 坂本千代
—コンシュエロの放浪とアドリアニのユートピア

- 1) 職業としての音楽
- 2) 音楽の力
- 3) 芸術家の自由

第3章 演劇、この「最も広大で完璧な芸術」—『デゼルトの城』を中心に 渡辺響子

- 1) 演劇界におけるサンドの創作活動
- 2) サンドの小説に描かれた演劇
- 3) ノアンでの実践、そして「芸術家の自由」の実現へ

第4章 絵画に喩えられた女性たち 村田京子

- 1) ラファエロの聖母像に喩えられた女性
- 2) ホルバインの聖母像に喩えられた女性

3 田園のイマジネール

第1章 パストラルの挑戦 宇多直久

—『ジャンヌ』『棄て子フランソワ』『クローディ』を中心に

- 1) サンドの田園小説像
- 2) 『ジャンヌ』にみる歌の要素
- 3) 田園劇の誕生
- 4) 新聞小説にみるサンド的パストラルの再生

第2章 旅と音楽の越境—『笛師のむれ』をめぐって 平井知香子

- 1) 『笛師のむれ』成立の経緯
- 2) 二つの異なる土地
- 3) 旅する笛師—融和の媒介者

第3章 物語への誘い—『祖母の物語』に託された願い 太田敦子

- 1) 『祖母の物語』の背景—19世紀後半のフランスの社会と文学
- 2) 伝統的なコントとの隔たり
- 3) 物語への誘い—メルヴェイユの力

§ 受容の歴史 ジョルジュ・サンドと日本

第1章 サンド作品の邦訳概史 坂本千代・平井知香子

- 1) 邦訳史概観
- 2) 田園小説の邦訳
- 3) 童話の邦訳—『祖母の物語』の受容

第2章 伝記の出版動向と文学史上の位置 坂本千代・高岡尚子

- 1) 伝記と文学作品
- 2) 文学史上の位置

第3章 研究史

坂本千代・西尾治子・村田京子

- 1) サンド研究の曙（1946～89年）
- 2) 女性サンド研究者たちの力（1989～2003年）
- 3) サンド研究の飛躍にむけて（2003年以降）

あとがき

注

サンド作品等の邦訳書誌

ジョルジュ・サンド年譜

参考文献

索引（サンド作品名／人名／地名／事項）